

## 「第3次豊中アジェンダ 21」 2018 年度評価

### <評価の対象・項目>

- ・「第3次豊中アジェンダ 21」でも引き続き、毎年実績を検証・評価し、行動提案は総会にて公表。

評価項目	関係	頻度	公表の方法
環境目標	環境基本計画と共有	毎年	豊中市環境報告書
行動提案		毎年	とよなか市民環境会議 総会

- ・「第2次豊中アジェンダ 21」は個別の行動提案ごとに評価を実施していたが、「第3次豊中アジェンダ 21」では望ましい環境都市像のテーマごとの総合評価に変更。
- ・評価項目や個別の評価指標は、状況に応じて追加・見直しをしながら運用していく。

項目	評価指標	評価方法
①統計や行政の行動の指標	行動提案と一緒に記載の 評価指標	数値の増減を前年度比で比較
②市民・事業者の行動の指標		
③構成団体チェックシート	行動提案の平均実施率	数値の増減を前年度比で比較
④市民の取り組みの質的な評価	文章を作成して表現	状況の改善などを数値に換算
総合評価		①～④の評価をあわせて数値化

※一部のテーマでは適当な取り組みがないため、市民・事業者の行動の指標を設定していない

### <評価の記載方法（総合評価のまとめ）>

関連する SDGs の主なテーマ	望ましい環境都市像		総合評価 の結果
 パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	<b>C</b>
 つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	<b>D</b>
} }			
2018 年度 総合評価のまとめ			<b>0.4 点</b>
「第3次とよなかアジェンダ 21」がスタートした初年度の評価でしたが、～（以下略）			

各テーマごとの総合評価の結果を記載

まとめの内容を文章にてコメント

各テーマごとの総合の結果を点数化し、平均した値を 10 点満点に計算  
※プラスの値：進捗とみなす

## <評価の記載方法（各テーマごとの総合評価）>

2018年度の数値がない場合は網掛けとし、2017年度の数値を2016年度と比較して評価します

直近の数値（2018）を前年度（2017）と比較し、5段階で評価します

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	140 団体	139 団体	138 団体	→
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取り組み事例数	225 件	232 件		→

③構成団体チェックシート	行動提案の7項目の平均実施率	—	—	45.24%	=
④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境展の来場者数や環境交流センターの利用者数は増加しましたが、同じく出展団体数や～（以下略）				→
総合評価					C

数値による比較だけでなく、状況を文章で説明し、評価に加味します。

新しい行動提案になってから、実施が1回だけのため、今回は評価が空欄（=）になります

①～④の評価を総合し、5段階で評価をします

## <数値等の引用や作成>

- ・①豊中市（行政）が主に把握している数値。
- ・②NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、および豊中市が把握している市民の取り組みの数値。
- ・③とよなか市民環境会議の構成団体（138 団体）を対象に、2018 年 3～4 月に実施し、42 団体が回答。
- ・④NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 が協力し、事務局（環境政策課）で作成。

## <評価の手順>

- ・①②でテーマごとに設定している指標の数値を各年度に入れる。
- ・③は構成団体から回答された実施率を計算し、各年度に入れる。
- ・直近の数値（2018 年度）を前年度（2017 年度）と比較し、%を算出する（%は表記していない）。  
%の割合に応じて5段階で評価する。  
※高い評価↑ 評価できる↗ 普通→ 少し課題がある↘ とても低い評価↓ 評価対象外＝  
※直近の数値が把握できていない場合は、前年度（2017 年度）と前々年度（2016 年度）の数値を比較。
- ・④は状況を文章で説明し、内容に応じて5段階で評価する。
- ・①～④の評価を総合し、5段階で評価する。  
※高い評価 A 評価できる B 普通 C 少し課題がある D とても低い評価 E

- 
- ・各テーマごとの A～E の総合評価を点数に換算する（A：10 点、B：5 点、C：0 点、D：-5 点、E：-10 点）。
  - ・換算した点数の平均を計算し、10 点満点で評価する。（※小数第 2 位を四捨五入する）
  - ・10 点満点の数値がプラスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて進捗をした、また、数値がマイナスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて後退したとみなす。

<2018年度 総合評価のまとめ>

関連する SDGs の主なテーマ		望ましい環境都市像		総合評価 の結果
	パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政と ともに協働で取り組むまち	C
	つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に 住み続けやすいまち	D
	住み続けられる まちづくりを	まちづくり	地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづく りができるまち	C
	質の高い教育を みんなに	環境学習・ 環境教育	みんなが環境についてともに学び、行動に取り組 むまち	C
	気候変動に 具体的な対策を	地球環境	地球温暖化を今よりも進めないため、自分にでき ることから取り組むまち	B
	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギー	くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自 然エネルギーの導入に取り組めるまち	B
	住み続けられる まちづくりを	交通	歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便 利なまち	C
	つくる責任 つかう責任	省資源・ 循環型社会	ごみになるものを減らし、資源として循環するこ とができるまち	B
	飢餓を ゼロに	食・農	地産地消で広がる活き活き農業と、「とよっぴー」 を紡いで食育が実感できるまち	D
	陸の豊かさも 守ろう	自然との共生	多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親し むことができるまち	C
	住み続けられる まちづくりを	歴史・文化	身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を 感じられるまち	C
	安全な水とトイレを 世界中に	音・水・大気	騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気 があるまち	C
	海の豊かさを 守ろう			
		2018年度 総合評価のまとめ		0.4 点
		「第3次とよなかアジェンダ 21」がスタートした初年度の評価 でしたが、大半のテーマで横ばいとなり、総合評価のまとめの点 数としてもほぼ横ばい（平均が0点台）となりました。今後は、 行動提案（80項目）を推進していくために、各テーマごとの課 題に応じつつ、取り組みを拡充していくことが求められます。		

<2018年度 各テーマごとの総合評価>

【市民参加・協働】地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	140 団体	139 団体	138 団体	→
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取り組み事例数	225 件	232 件		→
	とよなか市民環境展の来場者数、出展団体数	3,085 人 49 団体	3,247 人 52 団体	3,812 人 44 団体	→
	環境交流センター利用者数、会議室等利用回数	19,083 人 525 回	17,306 人 563 回	18,458 人 513 回	→
	市民環境展への協賛・寄付	216,860 円	231,840 円	210,835 円	↘
③構成団体チェックシート	行動提案の 7 項目の平均実施率	—	—	45.24%	=
④市民参加の質的な評価	とよなか市民環境展の来場者数や環境交流センターの利用者数は増加しましたが、同じく出展団体数や会議室の利用回数は減少しています。市民、事業者の環境活動の取り組み事例数では、新たな取り組みとして目立ったものはなく、従来の環境活動が継続されていることに留まっています。構成団体の行動提案の実施状況としては、「ネットワーク」の実施率が高いものの、全体としては半数以下に留まっています。今後は、市民参加・協働の取り組みに関してさらなる向上策が求められています。				→
総合評価					C

【人にやさしい】多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	とよなか百万歩ウォーク参加者数	1,154 人	1,092 人	1,148 人	↗
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（企画屋本舗）行事参加者数	114 人	90 人	51 人	↓
	環境マネジメントシステムの導入事業所数	47 件	46 件	41 件	↘
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	—	—	58.57%	=
④市民参加の質的な評価	費用や体制などから、環境マネジメントシステムの導入事業所数は減少傾向が続いており、事業者の環境活動として環境マネジメントシステムの実施をどう捉えるかが課題です。NPO アジェンダ（企画屋本舗）の参加者も、警報発令による中止の影響などで大幅に減少しました。構成団体の行動提案の実施状況としては、各行動提案でも大まかな表現が多いものの、実施率は高くなりました。参加者数など簡易な指標が多いことから、今後は、テーマの文言に即した具体的な取り組みの推進や評価指標の設定などが求められます。				→
総合評価					D

【まちづくり】地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	地域清掃活動登録企業数	10 団体	10 団体	10 団体	→
	生垣緑化助成件数	2 件	4 件	2 件	↓
②市民・事業者の行動の指標	みどりのカーテン参加団体数	69 団体	65 団体	64 団体	→
	花いっぱい運動実施場所数	31 団体	31 団体	31 団体	→
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	—	—	53.33%	=
④市民参加の質的な評価	生垣緑化助成件数は半減しましたが、長期的に見ると横ばいの傾向にあります。みどりのカーテンや花いっぱい運動の参加は、地域の団体やグループも含めて多くが継続的に実施されており、また、構成団体の行動提案の実施状況では「事業者の心がけ」の実施率が高くなっています。今後は、関連する取り組みを通じて、地域との協働がより広がっていくことが期待されます。				→
総合評価					C

【環境学習・環境教育】みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	出前環境学習の実施回数	11 回	8 回	13 回	↑
	緑化リーダー養成講座受講者数	41 人	49 人	49 人	→
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（事業部会）の行事参加者数	32 人	20 人	17 人	↘
③構成団体チェックシート	行動提案の 4 項目の平均実施率	—	—	39.88%	=
④市民参加の質的な評価	行政による出前講座は、前年度比で見ると実施回数が上下しているように見えますが、全体的に大きな変動はありません。一方で、NPO アジェンダ（事業部会）の参加者数は減少傾向にあります。また、行動提案の表現が、個人ではなく各団体で実施することが主となっているため、構成団体の行動提案の実施状況が低くなっています。今後は、テーマの文言に即した具体的な取り組みの推進や評価指標の設定などが求められます。				→
総合評価					C

【地球環境】地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	1人あたり温室効果ガス排出量	3.3 t-CO2	3.2 t-CO2		→
②市民・事業者の行動の指標	対象事業（環境交流センター）の参加者数	80人	115人	154人	↑
③構成団体チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	—	—	66.67%	=
④市民参加の質的な評価	1人あたり温室効果ガス排出量は環境目標でもあり、前年度と比較して横ばいですが、目標達成に向けては今のところ順調に進んでいます。対象事業（環境交流センター）の参加者数は、事業の企画を工夫したことで増加傾向にあります。構成団体の行動提案の実施状況について、気候変動に対する理解などは高いものの、フェアトレードの実践は低くなっています。今後は、地球環境問題を考える機会を増やすとともに、指標の設定を拡充することが求められます。				→
総合評価					B

【エネルギー】暮らしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	1人あたりのエネルギー消費量	37.0GJ	36.1GJ		→
	太陽光発電補助による導入量	358kw	262kw	338kw	↑
②市民・事業者の行動の指標	市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業によるCO2削減量	3,401kg	△4,693kg	31,929kg	↑
	エコポイントチケット「とよか」配布枚数	3,931枚	4,383枚	6,112枚	↑
③構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	—	—	76.98%	=
④市民参加の質的な評価	1人あたりのエネルギー消費量が微減し、市民の取り組みも上向き傾向になっています。各団体・事業者でも率先して取り組まれており、構成団体の行動提案の実施状況が12のテーマの中で最も高くなっています。個人が家庭で取り組むことができる行動提案が大半であることから、省エネルギーが定着しつつあることがうかがえます。今後は、関心のない市民へのアプローチなど、次のステップの取り組みが求められます。				↗
総合評価					B

【交通】歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	自動車保有台数（総数）	77,835 台	77,990 台	78,143 台	→
	電気自動車充電スタンド数	24 ヲ所	28 ヲ所	27 ヲ所	→
	阪急電車の利用者数	178,534 人	180,902 人		→
	カーシェアリングの台数	157 台	197 台	216 台	↗
	自転車通行空間整備状況	7.57km	7.57km	8.65km	↗
②市民・事業者の行動の指標	エコドライブキャンペーンの参加者数	—	53 人	68 人	↑
③構成団体チェックシート	行動提案の 14 項目の平均実施率	—	—	46.60%	=
④市民参加の質的な評価	自動車の保有台数が増加する一方で、阪急電車の利用者数やカーシェアリングの台数が増加するなど、想定される流れとは違う傾向になっています。構成団体の行動提案の実施状況では、宅配便のコンビニ受け取りやカーシェアリングの実施率が低く、全体の実施率を押し下げています。今後は、自身の自動車の使用だけでなく、交通に配慮したくらしに対する PR が求められます。				→
総合評価					C

【省資源・循環型社会】ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	1 人 1 日あたりのごみ量	726.3g	726.0g		→
	環境関連施設の見学者数	17,275 人	17,015 人	16,807 人	→
②市民・事業者の行動の指標	マイバッグ持参率	47%	48%		→
	豊中エコショップ認定店舗数	106 店	115 店	128 店	↗
	リサイクル工作参加者数	114 人	103 人	81 人	↓
③構成団体チェックシート	行動提案の 8 項目の平均実施率	—	—	62.50%	=
④市民参加の質的な評価	市民・事業者の行動として、マイバッグ持参率の 2018 年の値が出ていませんが、北摂 7 市 3 町でマイバッグ持参・レジ袋削減協定がされたことにより、大幅な数値の上昇が見込まれます。構成団体の行動提案の実施状況では、「3R の推進」に対する実施率が高いものの、環境関連施設の見学のみが低くなっています。今後は、関心のない市民へのアプローチなど、次のステップの取り組みが求められます。				↑
総合評価					B

【食・農】地産地消で広がる生き生き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	「とよっぴー」製造量	95.6t	107.2t	106.4t	→
	地域産野菜等の学校等給食提供回数	119回	120回	127回	↗
	市民農園申込者数	2,093人	2,072人	1,920人	↘
②市民・事業者の行動の指標	「とよっぴー」の購入者数	1,704人	1,377人	1,320人	→
	地産地消野菜の購入者数	2,107人	2,035人	1,791人	↘
	食育学習の回数、参加者数	80回 5,744人	95回 5,798人	136回 1,922人	↘
③構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	—	—	51.19%	=
④市民参加の質的な評価	市民農園申込者数や地産地消野菜の購入者数など、相対的に参加人数が多いものの、2018年度は減少傾向にあります。また、市民による小学校等での食育活動も、回数は増加したものの参加者数が大幅減になりました。構成団体の行動提案の実施状況では、食品ロスや地産地消の実施率が高く、全体として半数程度の実施率になっています。今後は、参加者数などを以前の状況に近づけることも必要ですが、食や農の取り組みにおける内実を強化することも重要です。				↘
総合評価					D

【自然との共生】多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	緑被率	未実施	未実施	未実施	=
	特定外来生物措置件数	22件	27件	26件	→
	タヌキ・キツネの相談件数	9件	18件	22件	↗
	ため池の箇所数	33カ所	33カ所	33カ所	→
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数	662人	609人	595人	→
	自主管理登録団体数	174団体	171団体	171団体	→
③構成団体チェックシート	行動提案の13項目の平均実施率	—	—	37.91%	=
④市民参加の質的な評価	各指標の数値からは大きな変化は見られませんでした。タヌキ・キツネの相談件数に関連して待兼山町周辺でのタヌキの病気が話題となりました。構成団体の行動提案の実施状況では、家庭でできる取り組みが少ないことから、低い実施率となっています。2018年度の災害により、行動提案や指標にどのような影響があるか、今後も引き続き注視する必要があります。				→
総合評価					C

【歴史・文化】身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	景観に関する協定件数	2件	2件	2件	→
	指定文化財数	84件	86件	86件	→
	保護樹、保護樹林数	133本 10件	140本 10件	138本 10件	→
②市民・事業者の行動の指標					
③構成団体チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	—	—	56.35%	=
④市民参加の質的な評価	行政の指標はほぼ横ばいで大きな変化はありませんでした。構成団体の行動提案の実施状況では、いずれの行動提案もテーマの実施率と同程度でした。今後は、具体的な取り組みの拡充と、市民・事業者の行動の指標設定が求められます。				→
総合評価					C

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【音・水・大気】騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち

項目	指標名	2016	2017	2018	評価
①統計や行政の行動の指標	環境基準達成状況（大気・水質・道路騒音・航空機騒音）	91.9%	92.2%		→
	公害関係苦情件数（大気汚染・水質汚濁・騒音）	68件	83件		↘
	雨水貯留タンク助成件数	11件	9件	14件	↑
	1人1日平均給水量	257ℓ	258ℓ	241ℓ	↗
②市民・事業者の行動の指標					
③構成団体チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	—	—	66.67%	=
④市民参加の質的な評価	行政の指標としては前年度と比べて変化がありましたが、行政施策や環境の現状としての目だった変動はありません。構成団体の行動提案の実施状況では、家庭でできる取り組みが多いため、高い実施率となっています。今後は、市民・事業者の行動の指標設定が求められます。				→
総合評価					C

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。